

関東大会予選初戦

4月26日(日)、関東大会予選の3回戦である錦城戦が行われました。

高島 68 - 76 錦城

立ち上がり相手の3Pシュートを高確率で沈められる一方、高島はいい形でオフェンスができず残り5分40秒で3-14と二桁リードを奪われる苦しい立ち上がりとなります。タイムアウト後も立て直すことが出来ず残り4分で3-17とさらにリードを広げられてしまいます。その後、ドライブやゴール下で少しずつ得点がとれるようになり、11-21と10点ビハインドで1Qを終えます。

第2Q序盤も錦城の3Pシュートが止められず残り6分50秒で17-33と点差を広げられてしまいます。苦しい時間が続く中でもDFで相手の中心プレーヤーを封じることが成功すると、流れをつかみゴール下で着実に得点することで徐々に点差を詰め、残り1.2秒で獲得したフリースローも2本沈め31-35と点差を4点差にまで詰めて前半を終えます。

第3Q、出だして3Pシュートを沈めると、フリースローで加点し36-35とこの試合初めてリードを奪うことに成功。その後、リードが目まぐるしく変わる一進一退の展開が続きますが、同点で迎えたラストプレーでルーズボールからブザービーターを決められ49-51でこのクォーターを終えます。

勝負の第4Q、相手の速攻やフリースローで点差を6点にまで広げられますが、再び3Pシュートで点差を詰め残り4分30秒で58-60と迫ります。しかし、ここから相手にアウトサイドのシュートを立て続けに決められ突き放されてしまいます。最後まで前からプレッシャーをかけて必死に追い上げを試みるも一歩届かず、悔しい敗戦となってしまいました。

負けに不思議の負けなし

手に汗握るアツいゲームでした。立ち上がりからリズムがつかめず最大16点ビハインドを負ったところから、一時逆転するなど選手たちの気持ちを感じられたゲームでした。しかし、結果は思っていたものではありませんでした。

錦城は得点力のある選手を複数擁するだけでなく、よく走り、ルーズボールなど球際での強さもある素晴らしいチームで、その後のベスト32決定戦でも序盤から点差をつけて危なげなく勝利していました。

ただ、我々にも勝利するチャンスは十分にありました。そしてそのチャンスをつかむことが出来ませんでした。

「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」江戸時代の剣豪・松浦静山の言葉です。

チャンスをつかみきれなかった原因は必ず自分たちの中にあります。その原因を他者に転嫁することなく、一人ひとりが自分にまだできることがなかったかを振り返り、総体予選に向けて変わらなくてはなりません。

ネガティブな結果とその原因分析に対して悲観的になることなく、自分たちが成長するためのチャンスだと前を向けるかどうか。チームの大きな試練を暗い気持ちではなく、ワクワクしながら「やってやろう！」という思いで日々の取り組みにつなげていけるか。負けてしまったここからが本当の勝負です。

私自身も「ここまでひた向きにバスケットに向き合い続けてきた3年生の高校バスケットというストーリーを必ずハッピーエンドにする」という不断の決意で、今日も体育館に向かうことをここに誓います。